



 放課後 NPO
アフタースクール

ANNUAL REPORT

2024年度 年次報告書



日本中の放課後を、
コーディネートしています。



2024

04.01

〜

2025

03.31



理念を見つめ直し、 次のフェーズへ。

私たちは2022年から2年以上にわたって対話と議論を重ね、私たちが目指す社会の姿と、その実現に向けた役割を改めて言語化し、新たな理念を完成させました。
放課後というかけがえのない時間をゴールデンタイムにすることで、子どもたちが“いまも未来も幸せに”生きられる社会を実現したいという私たちの想いと決意が、この理念には込められています。

Mission

私たちの使命

日本中の放課後を、ゴールデンタイムに。

子どもたちにとって放課後は、自分でやりたいことを自由に選び、多様な仲間や社会とつながり、夢中になって挑戦できる、まるで宝物のような時間「ゴールデンタイム」です。私たちは、子どもたちがワクワクする放課後の居場所づくりと多様な大人や体験との出会いを通して子どもたちの生き抜く力が育まれる社会を目指します。

Vision

私たちの目指す社会

子どもたちが、 いまも未来も幸せに。

私たちは、社会全体が子どもを尊重し、可能性を心から信じて応援する世の中となることを願っています。子どもも大人も対等な関係性の中で、一人ひとりが生き抜く力を育む環境を整え、誰もが共に幸せを感じられる社会を目指して活動していきます。

Value

子ども主体の放課後において
大切にしたい価値



さらに

私たち職員が働くうえで大切にしている願い (Wish) や、組織の文化 (Culture) も、ビジョン・ミッションに向き合うために不可欠なものとして理念体系の中に組み込まれました。詳しくはこちら。



代表・副代表メッセージ

Message from President

子どもの大切な“居場所”になる



代表理事
平岩 国泰

いつも放課後NPOを応援していただき、本当にありがとうございます。2009年6月に生まれた私たちの法人は人間の年齢で言うと2024年度に中学3年生である15歳の誕生日を迎えました。放課後NPOもまさに思春期のような迷いを抱えながらも、青春真っ盛りの全力な毎日だったと思います。

15歳を機に理念体系をアップデートしました。放課後NPOが日本中の子どもたちに貢献したい意志を表明しています。私自身は「出来ないことは軽々しく言わない」という性格です。ですので、ずっと胸に秘めてきた「日本中の」という言葉が表に出せたことに嬉しさと責任を感じております。

この15年で共働き社会が本格的に進展し「放課後」の重みも増してきました。一方で、現場にはまだまだ不安定さがあり、量も質も不足している現状です。そして

この間に107万人(2009年)から68万人(2024年)と、生まれる子どもの数は40万人近くも減ってしまいました。

私たちはこれまでの活動で、「放課後」という時間が子どもと保護者の幸せに大きく貢献できることを確信しています。最も重要なことは「子どもの声を聴く」ことです。そんな子どもたちの大切な“居場所”を社会に増やし磨いていくことで、子どもの「いまと未来の幸せ」に貢献することこそ私たちの願いです。

放課後NPOも350名を超えるスタッフ、全国3千以上の運営団体と繋がる組織となりました。こうした子どもを支える全ての仲間たちの幸せにも貢献することが私たちのもうひとつの願いです。

皆様、これからもどうか私どもをお支えください。どうぞよろしくお願いいたします。

Message from vice president

子どもの幸せと、 私たちの幸せが 両立する組織へ



副代表理事/事務局長
島村 友紀

放課後NPOアフタースクールは、多くの皆様のご支援に支えられ、少しずつ事業を広げていくことができました。心より感謝申し上げます。

社会課題の複雑化や事業の拡大に伴い、「子どもたちの放課後をよりよくしたい想い」と「持続可能な経営・組織運営」のバランスに悩みながらも、スタッフと共に真摯に取り組んできました。

いま私たちは、新たなフェーズを迎えています。これまで大切にしてきた自分らしさを大切にしながら働く環境や対話の文化に加え、今後は業務の標準化・仕組み化を進め、子どもや事業により深く向き合えるよう、次の成長ステージにふさわしい組織づくりを進めてまいります。「子どもたちの幸せ」と「わたしたちの幸せ」、その両立を目指し、これからも挑戦を続けます。

Message from vice president

日本中の 子どもたちのために 私たちができることは？



副代表理事
正村 絵理

直営アフタースクールの運営に加え、自治体・企業と協働した全国の放課後の居場所での体験機会創出、運営スタッフへの研修開催等を行う中で、子どもたち一人ひとりが自ら放課後の過ごし方を選び、決められることの重要性を近年益々実感しています。一方で、地域や居場所により子どもが主体的に過ごせるかどうかの差が大きいことも感じてきました。そうした中で、企業や保護者、地域の方からの「子どもたちのために何かできることはないか」といったお問い合わせは熱量と共に増加傾向にあります。

法人設立15年の節目を迎え、私たちは何を指し、何をすべきなのか、スタッフみんなで繰り返し対話を行い、子どもたちが“いまも未来も幸せに”過ごせる社会を目指す地図「未来マップ (TOC)」を策定しました。そして私たちの活動の核となる理念を刷新し、実現するための組織体制、各事業戦略へと落とし込んできました。目指す社会の実現には、より様々な方々と手を取り合い、協働・共創していくことが必要不可欠です。日本中の子どもたちのためにできることを皆様と一緒できると嬉しいです。

私たちの取り組み

放課後 NPO アフタースクールは、子どもたちが安心して豊かな放課後を過ごせる社会の実現を目指し、以下の4つの柱を中心に活動しています。

1 アフタースクールの運営とモデル開発



子どもが主役となる、安心・安全な放課後の居場所を提供し、全国でモデルとなるアフタースクールを運営・展開しています。

活動ハイライト » P.06

2 全国の放課後の居場所支援



地域のニーズに応じた居場所づくりを支援し、持続可能な運営を実現するため、研修やコーディネートを行っています。

活動ハイライト » P.07

3 全国の子どもの体験機会の創出



地域や企業との協働を通じて、全国の放課後の居場所でも様々な体験機会を創出し、新しい挑戦や学びの場を提供しています。

活動ハイライト » P.08

4 啓発と調査研究



放課後の課題の調査や問題提起、政策提言等を行っています。また、放課後の重要性と課題の社会的認知を広め、解決策の推進につなげます。

活動ハイライト » P.09

私たちのあゆみ



放課後が楽しいと学校が楽しい!

'24

全国の仲間とつながって学び合える!

放課後運営者支援を本格開始、第一回放課後勉強会の開催

ほうかごNEWS

子どもたちの声から放課後オバケ誕生

©tupera tupera

全国の小学生から「どんなオバケがいたら放課後が楽しくなる?」をテーマにアイデアを募集。みんなの声から、いつも応援してくれる「ガンバルン (左)」と、なんでも受け止めてくれる「ナデーテ・ホメホメ (右)」が誕生しました。キャラクター化は絵本作家のtupera tuperaさんが担当。アイデアの募集を通して、友達や仲間とのつながり、楽しさや癒し、サポートなど、子どもたちの放課後のニーズが見えてきました。

1

アフタースクールの運営とモデル開発

「アフタースクールモデル」としてこれまで培ってきたノウハウを、全国に広げることを目指して整理・言語化に取り組んだ1年となりました。



Topic 1 2校のアフタースクールが開校10周年を迎えました

トキワ松学園アフタースクールと湘南学園小学校アフタースクールは、2024年に開校10周年を迎え、関係者の皆様へ感謝を伝えるイベントを開催しました。

トキワ松学園では、子どもたちの「やりたい!」というアイデアをもとに10周年感謝パーティーを開催。湘南学園では、10周年イベントとして、湘南地域で活動している小野寺愛さん、湘南学園小学校の岩淵和信校長、当会代表理事の平岩国泰による「子どもの育ちのこれから」を考える三者対談企画や子どもたちのプログラム発表会、そして10年間を振り返る記念動画上映を行い、アフタースクールの価値を関係者の皆様と分かち合う時間となりました。

これまで支えてくださった皆様への感謝とともに、これからもアフタースクールが子どもたちにとって充実した放課後の居場所となるよう取り組んでまいります。

Topic 2 多様化する支援ニーズに応える居場所づくりのモデル開発

公立アフタースクールでは、学校や自治体、地域の皆さん、専門家と協力しながら、利用を希望するすべての子どもを受け入れています。利用人数が増える中で、障がいや特性、多様な背景を持つ子どもも含めて、一人ひとりに寄り添い、誰にとっても居心地の良いインクルーシブな居場所をどう実現するかに向き合っています。スタッフの対応力向上、環境改善などの研鑽を重ね、試行錯誤しながら、全国のモデルとなる仕組みづくりに取り組んでいます。

また、2024年度は、自治体との契約満了に伴い、直営で立ち上げてきたアフタースクールの運営の仕組みや環境を他事業者へ継承することにも挑戦しました。多くの協力と期待を寄せて頂いた学校、保護者、地域の方々に丁寧に説明を行うと共に、自治体や次期運営事業者の皆様にノウハウを丁寧に引き継ぎました。

直営アフタースクール



(2024年度)

直営アフタースクール子どもの参加人数(のべ)

237,029人

(2024年度)



2024年度に関わっていただいた大人の数(のべ)



※公立・私立アフタースクールの市民先生・社員先生合計値

子どもの声

アフタースクールで化石の先生にチャレンジ

アフターでは絵を描いたり友達とレゴをしたり、1年生とか違う学年の子とも遊んでいます。僕は化石が好きで、アフターで子ども講師として化石の先生をやったことがあります。自分がやりたいことを伝えたら、自分のために場を準備してくれて話を聞いてくれているんだなと感じました。

—小学5年生・男子(2024年度時点)

保護者の声

安心して遊ばせられるありがたい場所

最近では、安心安全に放課後を過ごせる場所がなかなかないと思います。でも、アフターは安心して子どもを預けられて、特に学校内にあるのが一番大きなところ。親としては子どもを思い切り遊ばせられるところでもあるし、あとは習い事もできるという、ありがたい場所だなと思っています。

—小学2年の保護者(2024年度時点)

市民先生の声

子どもたちが自信を持てるように

子どもたちは、最後のゴールに向かったときにいつもと違う走りを見せてくれるため、目標を叶えた時はうれしいです。音楽的に上達してほしいというよりも、自信を持ってほしい。子どものいいところをできるだけ見つけて、いろんなことに自信を持てるようにしたいと思ってこの時間を過ごしています。

—ピアプログラム

2

全国の放課後の居場所支援

子どもの声に寄り添った居場所づくりを自治体・居場所運営者の皆様のニーズに合わせて多角的に支援させていただいた1年となりました。



Topic 1 子どもの声を各地の政策や居場所づくりに反映

2023年に施行された「こども基本法」により、子どもの声を政策に反映することが国や自治体に義務付けられています。放課後の居場所づくりにおいても各地でこうした動きが見られる中、2024年度は茨城県つくば市、栃木県小山市と協働し、市内初の学校を活用した放課後の居場所「アフタースクール」のモデル校運営開始に向けた支援を行いました。制度や仕組みづくりの段階でも子どもや保護者の意見を聴き、2025年4月につくば市で運営開始。9月には小山市での運営開始が予定されています。また、神奈川県川崎市にて、学校開室の放課後児童クラブや児童館(こども文化センター)の環境改善や活動設計に子どもの声を反映。継続して子どもの声を反映していけるサイクルづくりに取り組みました。



Topic 2 休眠預金を活用し、インクルーシブな居場所づくりを支援

合理的配慮の提供が義務化した2024年。様々な子どもたちが過ごす放課後の居場所は、誰もが居たい・行きたいと思える場所でありたいと願う一方で、場所や人手、資金等の不足によりなかなかインクルーシブな環境整備が進まない課題があり、特に障がいや特性を持つ子どもたちの多くが居場所を失っています。こうした課題解決に向けて、休眠預金を活用し、すべての子どもたちが安心して過ごすことのできる「インクルーシブな放課後の居場所」をつくる活動に資金・非資金的支援を、2024年9月からREADYFOR株式会社と共に取り組んでいます。全国各地の居場所運営を行う5つの実行団体に対し、環境改善やスタッフの育成研修、地域とのネットワークづくりのサポート、組織基盤強化など、居場所ごとに抱える課題や子どものニーズに寄り添った支援を行っています。

連携・受託自治体数(2024年度)

12自治体

港区 重度障害児支援

墨田区 放課後子ども教室立ち上げ

滋賀県 体験活動プラットフォーム運営受託

小山市 アフタースクール化

芦屋市 放課後プログラム提供

つくば市 アフタースクール化

吉備中央町 放課後活性化

千葉市 放課後活性化

南あわじ市 アフタースクール化

泉大津市 放課後子ども教室立ち上げ

津島市 放課後活性化

川崎市 地域連携強化

居場所運営者研修参加人数(2024年度)



自治体担当者の声

協働するからこそできることがある

地域の居場所づくりを共に進めていく中で、現場を支えてくださるスタッフの方のマインドの変化は影響力が大きくとても大事です。これは行政の担当課だけでは難しく、NPOさんが関わってくださることでどんどん居場所や地域が変わってきていると感じ感謝しています。

—自治体担当者

居場所運営者の声

同じ境遇で働く方々の声がかたく、実り多い研修

研修ではまさに自分も悩んでいるケースが扱われ、みんなで出し合う様々な意見がとても参考になり、早く実践してみたいです。また放課後NPOさんや他の参加者の皆さんなど、同じ境遇で働く方々の声は同志のような心強い気持ちになり、実りの多い研修でした。勤務が楽しみになりました。

—居場所運営者

参加児童の声

やりたいことがたくさん! 放課後が楽しくなった

アフタースクールができて、毎日いろんな遊びができるし、イベントも増えたので前よりもっと放課後が楽しい。いやなことがあった時とか、好きなこととか、おとながいつも話をきいてくれる。遊び道具がたくさんあったり、新しいスポーツがきたり、楽しいと思う時間が増えた。

—小学4年生

3

全国の子どもの体験機会の創出

多くの企業・自治体との協働を通じて、多様な体験や出会いを日本中の子どもたちに届けるとともに、関わる大人たちも体験活動の意義を再確認した1年となりました。

Topic 1 SMBCグループが取り組む居場所づくりに伴走支援

東京都板橋区にある三井住友銀行の出張所跡地を活用した“子どもたちの学びや体験を支援する居場所”「アトリエ・パンライ-ITABASHI-」の2025年4月オープンに向けて、居場所運営のアドバイザーを務めました。子どもたちにとっての「行きたい」「居たい」「やってみたい」居場所にするため、これまで培ってきたアフタースクール運営のノウハウを活かして、居場所のビジョン策定、ニーズに合った運営方針や環境づくりを共に考え、スタッフ研修等を担当しました。3月のプレオープンイベントでは、代表平岩がゲスト登壇したり、協働で企画開発した、金融経済教育プログラム「怪盗マネーからの挑戦状」のお披露目をし、子どもたちが楽しみました。



Topic 2 地域企業や大学とともに子どもたちに体験を

2023年度より開始した滋賀県の委託事業として、地域企業等と小学生の居場所をつなげるプラットフォーム「ことなBASE」の事務局を担い、企業や自治体の方と共に、子どもたちに多様な体験プログラムを届けています。例えば「しごとのおしごとずかん」では、複数企業が自社の仕事内容を紹介するブースを設置。子どもたちは、体験や社員へのインタビューを通して、様々な仕事の魅力を深堀りしました。子どもたちからは「やってみたい仕事があった」、企業担当者からは「自分の仕事に誇りを持った」との声が聞かれました。その他、県内企業の交流イベントや、県内の大学との連携などにも取り組んでいます。2024年度までに、県内各地で1,400人以上の子どもたちに体験機会を届けています。



協働企業数
(2024年度)



実施団体数
(2024年度)



参加児童数
(2024年度)



参加児童のエピソード

夢中になれる時間が放課後にはある

実車がやってくるプログラムに参加していた子どもたち。地面に這いつくばって車の下の構造をじっくり覗く子、車について知っていることを社員先生に興奮気味に話しながら、気になったことはその場で質問する子…。学年関係なく、一人ひとりが目を輝かせながら参加する様子が印象的でした。

—参加児童

企業担当者の声

社員先生として参加したからこそ気づけたこと

- 子どもたちが積極的に発言してくれて、学びたい知りたいという気持ちを前面に出してくれた姿は、今の自分自身に欠けている何かを思い出させてくれました。
- 自分の仕事の社会的意義を確認でき、背中を押してもらったような気持ちになりました。

—企業担当者

実施団体スタッフの声

体験活動の意義や価値を感じた一日

- どんな体験でも、子どもたちの成長につながるということを再認識しました。また、外部の方と触れ合うことも子どもたちには刺激になると感じ、今後も様々な体験活動を実施していきたいと思いました。
- 体験活動の大切さを実感するとともに、子どもたち自ら何かを学びたいと思える環境づくりも大切であると思いました。

—実施団体スタッフ

4

啓発と調査研究

放課後の価値や課題を広く多角的に社会に発信することで、子どもたちの放課後が豊かになるためのアクションが社会全体に広がることを目指します。

Topic 1 放課後児童クラブにおける体験充実、学校活用促進を提起

子どもの意見を政策に反映する取り組みが各地で少しずつ広がりを見せていますが、2024年度は意見聴取の手法や部局間の連携も含めた反映方法について難しさを感じるという声が多く自治体から聞こえてきました。私たちは、こうした自治体の課題解決に寄与できればと、オリジナル情報誌の発行やイベント開催を行なっています。2024年度に開催した自治体向けのオンラインフォーラムには594組が参加(うち自治体職員は199組)。参加者からは「子どもの意見反映に向けて具体的に行動していきたい」という声が多数寄せられました。また156万人以上が利用する放課後児童クラブにおいても、より一層子どもの意見聴取・反映が進むことを目指し、『子どもの貧困対策推進議員連盟(教育格差について考えるワーキングチーム)』より、さらなる学校活用や体験充実を求め子ども家庭庁および文部科学省の各大臣に提言を行いました。



Topic 2 イベントや調査を通して放課後の課題・価値を発信

近年、子育て層を含む一般の方に向けた啓発イベントや、放課後に関する調査を行い、放課後の課題・価値の認知促進に向けて取り組んでいます。2024年度は教育評論家の尾木直樹氏をお招きし、子どもが自らの力で今も未来も幸せに生きていくために家庭や学校、放課後はどうあるといいかを子どもたちとの対話を通して考えるイベントを開催しました。また、小学生の子どもがいる就労家庭1,200人を対象に、放課後の過ごし方やその満足度について実態調査を実施。年収300万円未満の子どもは習い事や友達と遊ぶ頻度が少ないことや、放課後の過ごし方に対して子どもや保護者が抱えるニーズが叶えられていない状況が浮かびあがってきました。今後もこうした啓発活動を通して放課後の現状を伝え、放課後に関心を持ち関わる方を増やしていきたいと思えます。



メディア掲載数



子どもが主体的に過ごせる居場所づくりや、放課後の居場所の質の重要性を上げていただくことが増えた1年でした。

自治体フォーラム参加者数



子どもの意見反映について実行イメージが持てましたか?



子どもの意見反映について具体的に行動しようと思えましたか?



一般・子育て層向けイベント参加者数



子どものウェルビーイングについての関心が高まった



家庭や職場で子どもと対話してみようと思った



自治体フォーラム参加者の声

子どもと一緒にゆっくりすることが重要

子どもの要望などをただ聴くのではなく、子どもにも聴く側にまわってもらうなど、一緒に作り上げていくことの重要性について気づかされました。大人が全ての環境を整えてしまうことは、負担が増えるだけでなく、子どもの成長や喜びを妨げてしまうということも大人が共通して理解すべきと感じました。

—自治体フォーラム参加者

一般・子育て層向けイベント参加者の声

子どもの幸せのために自分にできることを考えたい

子どもと一緒に過ごす時間を幸せに思うゆとりを持ってない時もありましたが、今日の話聞いて、これから先子どもたちと一緒に幸せに暮らしていけるような未来を私たち大人が諦めて目を逸らしてはいけないということを考えさせられました。今の自分にできることは何か、改めて考えていきたいと思えます。

—一般・子育て層向けイベント参加者

私たちのこれから

「日本中の放課後を、ゴールデンタイムに。」実現に向けて、インパクト戦略を策定し、中期経営計画をまとめました。

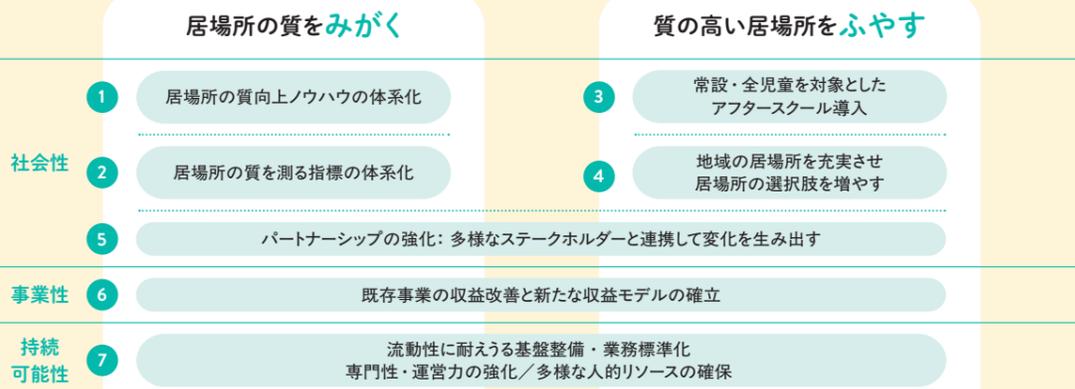
場づくりの実践と社会の変革を両輪で行う組織へ

2024年度は理念の刷新と共に、経営戦略の策定も進めてきました。2022年から2年近くかけて作成したセオリー・オブ・チェンジ（「未来マップ」と名付けました）をもとに、目指す社会像を具体化し、それに向けて解決すべき課題を整理、解決策を中期事業計画に反映しています。2025-2027年度の3カ年では、社会的インパクトをより拡大するための

事業・仕組みへの転換を図るため、自治体や居場所の支援の枠組みづくり、その実行を継続的に拡大するための新たな収益モデルの確立、そして、多様な人材の獲得と活躍できる組織基盤づくりを強化して参ります。居場所の質を「みがく」、質の高い居場所を「ふやす」ための戦略として、7つの重要テーマ（下図）を設定し、事業横断的に取り組んで参ります。

重点戦略

「場づくりの実践」と「社会の変革」の両輪
社会的インパクトをより拡大するための事業・しくみへの転換



次期3カ年（2025-2027年度）で注力する取り組み

● 全国子どもの居場所支援チームの新設

全国に約5万箇所ある放課後の居場所が、子どもの権利・主体性を尊重した場になるよう居場所運営者とのネットワークを構築し、直接的な支援プログラムを提供する事業を25年度から新設することを決めました。居場所運営者の課題やニーズを把握し、アフタースクール運営で培ったノウハウを活かして実践的な研修やツール等を展開予定。ネットワーク内でのナレッジ共有による課題解決も目指します。

● ファンドレイズチームの本格始動

持続可能なインパクトの拡大を実現するための新たな収益モデルの確立を目指し、24年度よりファンドレイズ事業に専任人材を確保し、事業立ち上げに本格着手しました。ファンディング戦略を策定し、重点ステークホルダーを整理、ステークホルダーごとに資金調達のコアチームと施策を検討。全国子どもの居場所支援、調査研究、広報の3つの事業費を確保できる状態を目指します。

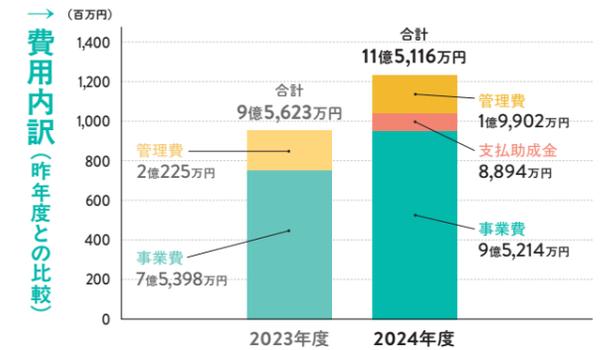
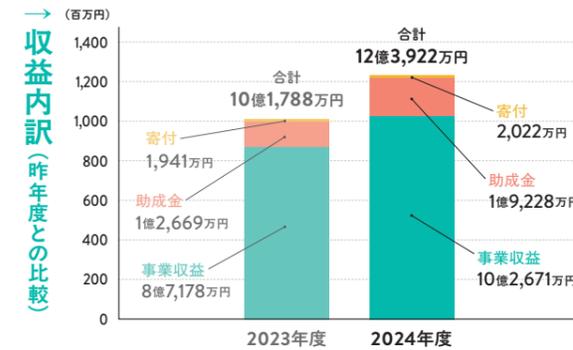
● 調査研究チームの新設

全国子どもの居場所支援とともに、25年度から新設する調査研究チームでは、全国の放課後の居場所の“質”と“課題”を可視化し、子どもが“行きたい”と思える居場所を増やすためのエビデンスをつくり、社会の変化につなげることを目指します。インパクト評価マネジメントの設計・実行のほか、居場所の質を測り、改善につなげる評価の仕組みづくり、放課後に関わる各ステークホルダーの実態や課題の調査を行います。

● 組織基盤の整備

多様な人材が活躍する、持続可能な組織の実現を目指し、組織基盤整備にも力を入れて取り組みます。専門・運営人材の採用・育成の強化、人事評価制度の確立、多様な雇用形態による人材確保、ライフステージ変化等にも対応できる柔軟な働き方を想定した人事設計を実現します。また、業務の標準化や仕組み・フロー整備による効率化も組織横断的に進めます。

2024年度財務・会計報告



安定した事業基盤と皆様のご支援で、より多くの子どもたちに豊かな放課後を

2024年度の収入は12.4億円、支出は11.5億円となり、いずれも前年度から約20%増加しました。増加の主な要因は2つあります。1つ目は、休眠預金活用事業の資金分配団体に採択されたことにより、助成金の収入と支払いが増加したこと。2つ目は、私立アフタースクールの利用者増加や、企業・自治体からの新規受託案件により、事業収益および事業費が増加したことです。こうした事業収益の増加により、安定した財務基盤を確保することができました。また、2025

年からの3カ年では、全国の子どもの居場所を充実させるための中間支援活動を本格的に展開していく計画です。この取り組みは事業の収益性よりも社会的意義を重視した活動であり、安定した事業基盤に加えて、皆様のご寄付による支えが不可欠となります。すべての子どもにとって安心安全で豊かな放課後の実現に向けて、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

● 当会の活動全般にご寄付いただいた方々（50音順）

- 法人**
- アバナード株式会社
 - 株式会社エーエージェント・インシュアランス・グループ
 - 株式会社エポスカード
 - グリーホールディングス株式会社
 - サムライ・キャピタル株式会社
 - 株式会社サンセイランディック
 - JPモルガン証券株式会社
 - 株式会社千趣会
 - ソニー銀行株式会社
 - 株式会社中島董商店
 - 日本ウイリング株式会社
 - 文化服装学院
- 個人**
- 青山 健様
 - 岡山 真之様
 - 加藤 浩嗣様
 - 窪田 良様
 - 山崎 祐一郎様

※一定金額以上のご寄付をいただいた方を掲載しています。その他、サポーター（マンスリー・アニュアル寄付、賛助会員）等、多くの方々にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

Message from Donors

“良いNPOには、良い寄付者が欠かせない”

・パートナー/サムライ・キャピタル株式会社 代表取締役社長 青山 健さん

放課後NPOの収益グラフを見て、寄付収入のパイの何と小さいことかとショックを受けないだろうか？放課後NPOの皆様が彼らの事業への情熱にはいつも感服させられる。グラフの事業収益が彼らの事業への情熱だとすれば、我々サポーターの情熱は寄付収入のパイの大きさと測れるかもしれない。この両輪が一緒になって放課後NPOを更に盛り上げていけるよう頑張ろうではないか。

“放課後を通じて子どもたちが輝き、幸せを感じられる社会に”

・株式会社千趣会 サステナビリティ推進担当 鈴木 亮平さん

育児商品の開発・販売や保育事業を展開する千趣会は、子育てに関する社会課題にも強い関心を持ち、通販「ベルメゾン」のお客様から寄せられる募金や売上の一部をもとに、この解決に取り組む団体等を支援しています。放課後NPOアフタースクール様の思いと活動に賛同し、子どもたちが主役として輝き、幸せを感じられる未来を創っていけるよう、共に取り組んでまいります。

ご寄付・ボランティア参加
受付中

ご寄付
皆様のご支援をお待ちしています。子どもたちの未来を支える力となります。



ボランティア
子どもたちの見守り、ライティングやアンケート協力など、関わり方は多様です。



ほかご VOICE

放課後から育まれる“いま”と“未来”
子どもたち、そして支える人たちのリアルな声をお届けします。



Profile

2004年神奈川県生まれ。湘南学園小学校4年の時にアフタースクールが開校し、茶道や華道のプログラムを体験。現在は多摩美術大学工芸学科陶専攻でお茶碗や置物などを制作し、作家として活動中。

“アフタースクールでの体験が今の自分の原点”

● 湘南学園小学校アフタースクール卒業生 佐藤 匠さん

2024年で20歳になり、今は美術大学で陶器の置物などを制作しながら、作家として活動しています。当時は振り返ると、アフタースクールはずっと楽しくて、同級生や他の学年の友達と関わりながら、自分の好きなことを一緒にやれたりとか、あまり普段経験しないような体験ができたことがとても印象に残っています。スタッフの方々はずごく優しく、家に帰っても一人のことが多かったので、第二の家みたいな、すごくアットホームな雰囲気、その空気感に助けられたという、ありがたかったなと今でも思い

ます。アフタースクールのプログラムで茶道と華道を体験したことが、今の自分の原点になっています。自分がたてたお茶を人に飲んでもらったり、生けたお花を人にほめてもらったりなど、誰かに喜んでもらう経験が今でも強く覚えていて、当時、プログラムを通じて経験したことやその喜びが深く心に刻まれていて、それが今の制作の基盤にもなっています。アフタースクールで茶道と華道を体験していなかったら、今この業界にはいないんだろうと思うくらいに多大な影響を与えていただきました。

“明るい未来へ、さらなる飛躍を応援します”

● アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長兼 CEO 安淵 聖司さん

昨年、15周年を迎えた放課後NPOアフタースクールは、とても嬉しいことに、全国にその活動を広げながら、日本中の放課後を「ゴールデンタイム」にするという目標に向かって力強く進んでいます。私は、10年前に代表理事の平岩国泰さんに出会い、その思いに共感してサポートして来ましたが、ここからの10年がさらなる飛躍の時期だと思っています。これからも、一人でも多くの子子どもたちが、自分の「居場所」を見つけられるよう、好きなことに打ち込めるよう、仲間が出来るよう、私も放課後NPOアフタ

ースクールのサポートを続けて行きます。子どもたちは、私たちの「未来」そのものです。明るい未来が実現するためには、子どもたちが自分に自信を持ち、将来への夢と希望をもって、どんどんいろんなことにチャレンジしてもらいたいです。そのために、大人も一人一人が多様な個性を子どもたちに示し、まっすぐに向き合っ、様々な体験を「放課後」という素敵な時間を使って提供する活動を全国いたるところで立ち上げていきましょう。私には、少し明るい未来が既に見えてきました！



Profile

三菱商事、UBSを経て、GEキャピタル・ジャパン、ビザ・ジャパンのCEOを歴任、2019年より現職。経済同友会で「社会のDEI推進委員会」の委員長を務め、多数のNPOや学校を支援。

